

(対象事業：先進的な展示・教育普及手法の開発等の事業)

事業名：魅せます！ふれあいBOX

事業者名：萩市郷土博物館

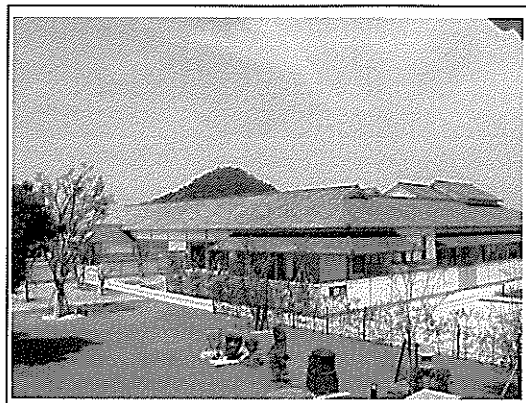
連携事業館名：

住所：萩市江向552-11

TEL：0838-25-6447

FAX：0838-25-3142

HPアドレス：



①施設概要

昭和34年（1959）開館の総合博物館。

（当該事業実施開始時は展示を休止中、年度途中の11月11日、萩博物館と改称し、郷土博物館を継承して萩市堀内355番地に移転、リニューアル開館）

②事業の意図目的

- ・ 観覧するだけでなく、安心して触れることができる体験型展示資料の開発制作により、博物館利用を促進する。
- ・ 博物館資料利用にあたっての障壁を無くす。視覚障害者や外国からの来館利用に対応できる展示資料を開発制作する。
- ・ 積極的アウトリーチ活動を展開するための学習素材セットを開発制作する。

③事業概要

- ・ 持ち運び可能な小型の箱の中に、萩の歴史、文化、産業等にかかわりのあるテーマに沿って、資料や情報を収める。箱数については、40人学級10グループでの利用を想定した数とする。
- ・ 「見る」ことが困難な利用者を想定し、「触る」「聴く」「嗅ぐ」ことで理解が進むような内容を企画する。
- ・ 内容資料に関して付す解説シートについては、音訳、点訳、外国語訳（英、中、ハングル）を施す。
- ・ 公民館や小中学校において、通常は展示室内に配置する「ふれあいBOX」を活用した出前講座を実施する。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 「ふれあいBOX」3種7箱12セット
（アウトリーチ普及活動の学習素材セット）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 395人
内 訳

出前講座（公民館）5回 160人 ： 小中学生80人、大人80人

出前講座・校外研修（小学校）4回 175人 ： 小学生170人、大人5人

小学校教育研修会 3回 60人 ： 大人60人

(1) 事業の実施状況について

① 事業の内容

- ・ 持ち運び可能な小型の箱の中に、萩の歴史、文化、産業等にかかわりのあるテーマに沿って、触れることができる資料や情報を収めた「ふれあいBOX」を開発制作した。
- ・ ボックスに収める資料について、地域での掘り起こしと制作を試みるワークショップを実施した。
- ・ 個々の「ふれあいBOX」には、解説シートの他に、内容と利用法を紹介する音訳、点訳、外国語訳（英、中、ハングル）及びその音訳を収納し、利用にあたっての障壁を少なくするよう意を払った。
- ・ 来館者が「ふれあいBOX」を自由に引き出し、内容資料を手にとって体感できるよう展示室の一角に設置した。
- ・ 「ふれあいBOX」を教材として活用して、公民館等でアウトリーチの普及活動を実施した。
- ・ 小学校での授業や校外研修において教材として利用し、また教育研究会において、小学校での活用を検討した。

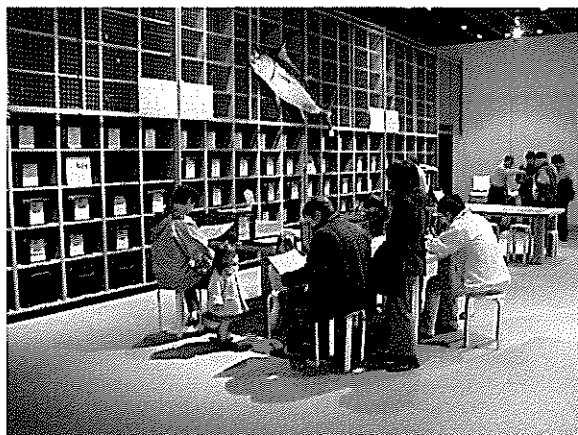
② 事業の効果

- ・ 設定したテーマが身近なことで、主体的に博物館資料に触れることができることにより、博物館に親近感を覚えたという来館者が増えた。
- ・ 展示室において「ふれあいBOX」の普及にあたったNPO博物館スタッフと、来館者との間で交流が進んだ。来館者同士の交流も進んだ。
- ・ 従前の出前講座に比べ、幅広い世代の受講者の興味を喚起することができ、また博物館スタッフと受講生の間の交流を進めることができた。
- ・ 「ふれあいBOX」の内容充実や、他のテーマでの制作について、要望が寄せられるようになった。また、「ふれあいBOX」を利用した視覚障害者より、更なる開発制作の要望が寄せられた。
- ・ 地域の生活文化に対する関心を喚起することができた。特徴的な衣類「裂き織り」の地域での掘り起こし、総合学習での取り組み、復元の試み、世代間交流等が進んだ。
- ・ 諸般の事情により展示を休止していた博物館に対する認知が進んだ。

③ 「ふれあいBOX」のテーマ

- ・ 「萩焼ができるまで」
- ・ 「松下村塾入門」
- ・ 「裂織りを着てみよう」

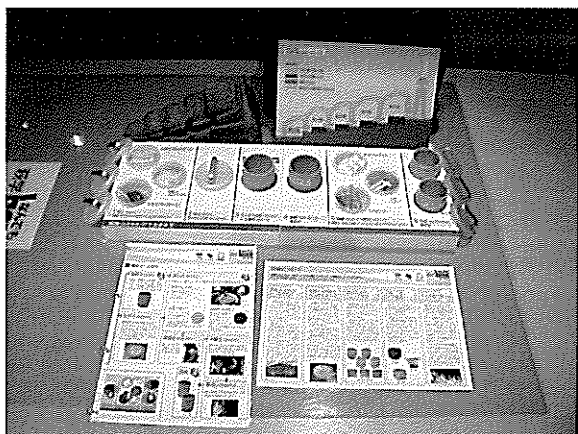
(2) 成果物について



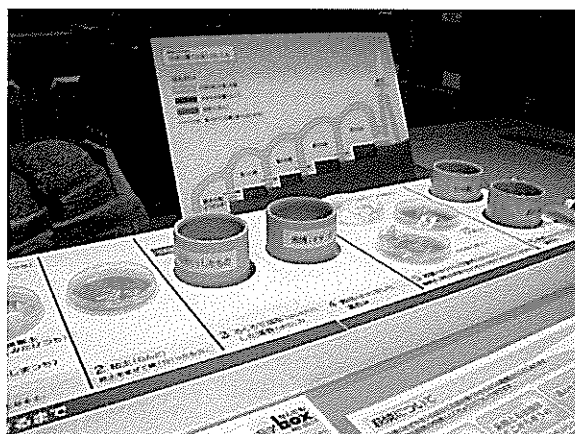
展示室内に設置した「ふれあいBOX」



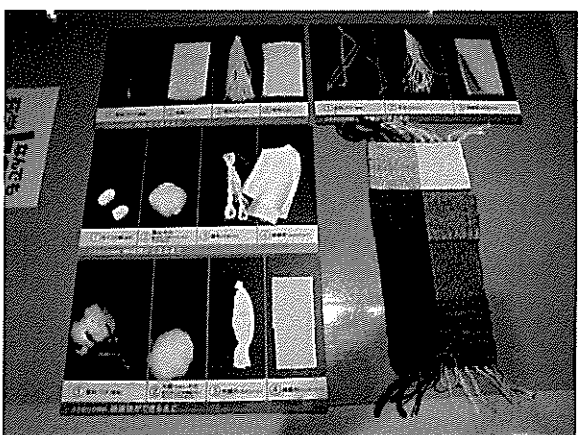
「ふれあいBOX」



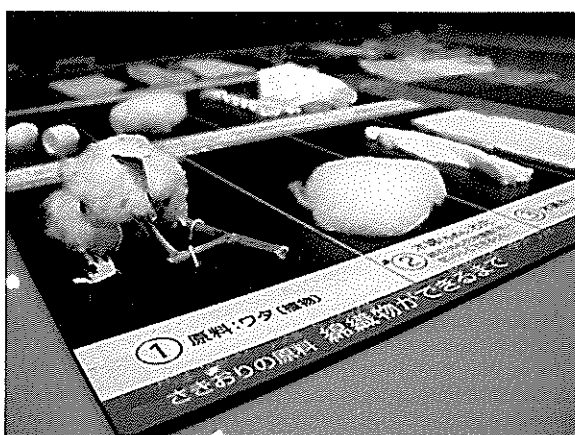
「萩焼ができるまで」



「萩焼ができるまで」

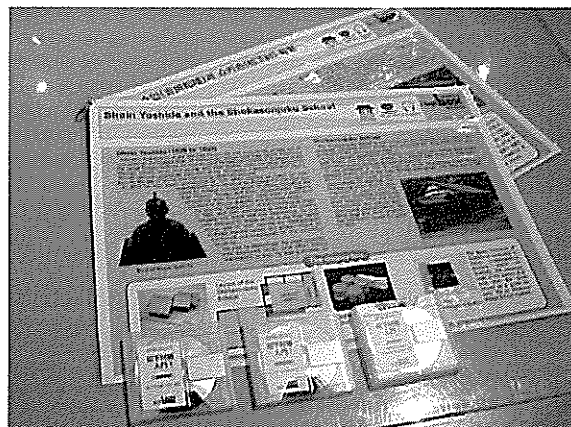


「裂織りを着てみよう」

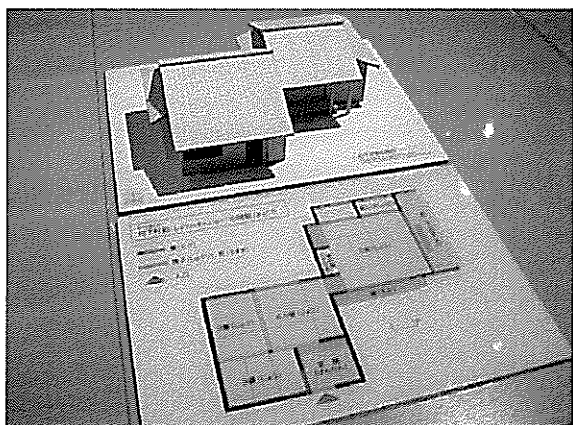


「裂織りを着てみよう」

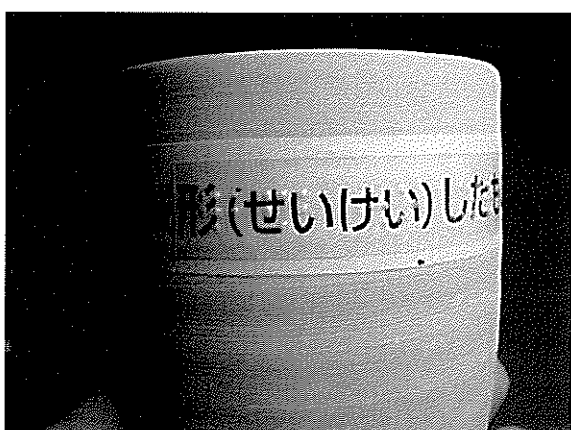
3 種 7 箱の「ふれあいBOX」は、通常は展示室内の棚に収納し、アウトリーチ普及活動の際に持ち出す。BOXの大きさは、50 cm W×35 cm D×26 cm H、資料を含む重さは 5 kg 程度。



それぞれのBOXには点訳を施した解説書、内容を抜粋した音訳、外国語訳（英、中、ハングル）の解説書と音訳を収納した。

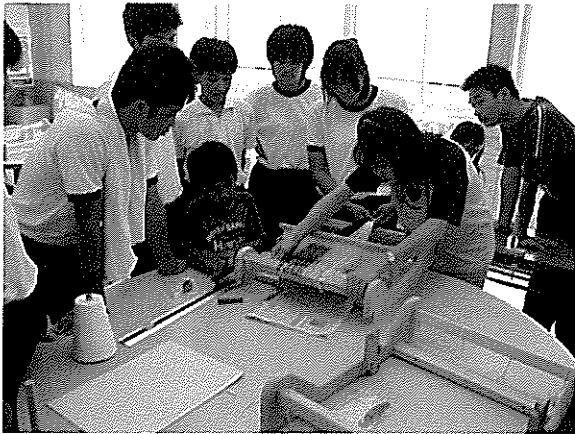


BOXの中には、「松下村塾」「吉田松陰像」「萩焼登り窯」模型や、触れることで理解できる「触知解説板」などを収納した。



実際に着用することができる実物資料（裂織り衣料）や、触れて萩焼の製作過程を理解できる立体資料（立体物にも点字併記）を収納した。

(4) 参加者の反応



ワークショップを実施し、BOXの中に収める資料の制作を試みた。その過程で、地域文化の再認識、掘り起こしが進み、総合学習での取り組みや、世代間交流が進んだ。



主体的に資料に接することができるということで、博物館に対するイメージが変わったという感想が寄せられた。また、来館者同士、来館者と博物館ボランティアスタッフや博物館スタッフとの間で交流が進んだ。内容充実要望や資料所在情報が寄せられるようになった。



出前講座



出前講座



日ごろ博物館の利用が容易でない公民館や小学校などで「出前講座」を実施した。BOXの内容は楽しいものであり、博物館を身近に感じるとともに、今後も利活用を図りたいとの感想が多く聞かれた。大人から子どもまで、触れることができるのは魅力とされ、講座の中で世代間交流も進んだ。



視覚障害者の方からも、これまでに無い展示物と好評価を受けた。更なる開発制作の要望が出された。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

- ・ これまでに無い形の体験型展示が導入されたということで、注目を集めただけでなく、主体的に博物館及び博物館資料に関わる来館者や利活用者が増加した。
- ・ 博物館を身近に感じる利活用者が増え、利活用者の幅も広がった。博物館利活用の促進を図るための糸口を見出せた。
- ・ 地域の特徴ある文化の保全継承に関する拠点施設として、地域文化への興味や関心の喚起、掘り起こしや継承の機運醸成に、少なからず寄与できた。
- ・ 出前講座等のアウトリーチ普及活動の展開が容易となり、今後、公民館や小中学校との連携事業を頻繁に行うための素地作りができた。
- ・ 来館者、利活用者、地域住人、博物館NPOスタッフ、博物館スタッフ等の間で交流が進み、双方向の情報のやり取りが進んだ。